

## 令和3年度 学校評価計画表

教育目標	◎「スポーツ(部活動)をとおしての人づくり」をスローガンとし、たくましい体力と豊かな情操を育むとともに、確かな学力を身につけさせ、自己の進路を確保させる。 ◎社会の中で自立して生きていくための基礎基本を学ぶ学校。		総合評価	
運営方針 (重点目標)	○挨拶の励行と適切な言葉遣い、正しい身だしなみを意識させ、時間を守る指導を徹底する。 ○校内美化の維持継続と常に最適な学習環境を整える習慣をつけさせる。 ○授業、部活動、学校行事等に自主的・意欲的に取り組む態度を身につけさせる。			
令和2年度の成果と課題	本年度の具体的目標	具体的方策		
ここ数年の重点目標として「挨拶の励行や適切な言葉遣いを行う指導の徹底」をあげている。これらに対する生徒へのアンケート結果として、「敬語を使っている」、「先生方に挨拶をしている」の項目は、ともに90%を超えており、指導の成果が顕著に出ている。また、「予鈴前入室・予鈴着席完了の完全実施、本鈴始業の指導を全教員により粘り強く継続し、落ち着いた学校をつくるためにその完全定着を図る。」をあげているが、予鈴前入室・本鈴始業の状況はほぼ定着し、習慣化した。 校内美化と最適な学習環境づくりはここ数年の職員、生徒の取り組みで大きな改善が見られている。自分たちの環境美化に対する意識は年々高まってはいるが、今後しっかりと維持していかなければならない。 昨年度から学校コミュニティースクールの取組が始まったが、地域の方からも、取組に対して一定の評価をいただいている。地域とともにある学校として地域から愛される学校づくりをさらに充実したものにするため、本校の魅力を発信する広報活動にも力を注ぎ、行きたい学校、学びたい学校となるよう、活力ある学校づくりを進めていきたい。	・学習の必要性を理解させ、確かな学力の育成を図る。	学習習慣の定着 ・授業を大切にし、基礎的、基本的な知識や技能を確実に習得させ、進路実現に向けて自ら学ぼうとする力を身に付けさせる。(予鈴入室、チャイム始業) ・学力補充講座や学力促進講座を積極的に活用し、学力を伸長する。 ・授業力の向上に務め、わかりやすい授業を目指す。		
	・ルールやマナーを守ることが社会での自立に繋がることを理解させ、基本的な生活習慣を確立させる。	規範意識の醸成 ・身だしなみ、挨拶の励行、適切な言葉遣い、遅刻の防止、礼儀、清掃活動の徹底等、基本的な生活習慣を身につけさせ、将来の社会人としての必要な資質・能力を培う。 ・凡事徹底!(当たり前のことをきっちり行う。)		
	・清掃活動をとおして協調性を育成すると共に、みんなで使う場所を大切にする公共心を養う。	清掃活動の充実 ・日々の清掃活動を教員、生徒共に徹底して行う。 ・定期的に通学路清掃を実施し、集団での清掃に意欲的に取り組む姿勢を醸造する。		
	・部活動やボランティア活動等に積極的に参加させることをとおして、豊かでたくましい心身の育成を図る。	部活動等の活性化 ・部活動やボランティア活動等の体験的な活動に参加させることで達成感・成就感、自己肯定感を持たせ豊かでたくましい心身の育成を図る。 ・新入生部活動体験入部を組織的に取り組み、各部活動経営の魅力化に務め、部活動入部率及び競技力向上を図る。 ・「スポーツ(部活動)をとおしてのひとづくり」の推進及び地域社会活動への積極的な参画を推奨する。 ・生涯にわたって運動を楽しむ力を身につけ、自らの体力向上に向けて主体的に取り組む力を育成する。		
	・学校評価の推進を図る。	・生徒や保護者、教員を対象としたアンケートをさらに充実したものにして基本的な情報の収集に務め、改善へ向けて活用できる学校評価システムの構築を行う。		
	・学校広報(情報発信)の強化を図る。	・学校のHPの定期的な更新をはじめ、各方面に積極的な広報を行い、情報発信に努める。 ・学校案内パンフレットの工夫やオープンキャンパスの更なる充実を目指す。 ・休業期間や校務の隙間を利用した中学校訪問を充実させ、学校の魅力を伝える活動を積極的に行う。		
	・「学校コミュニティースクール」による地域との連携・協働を図り、地域と共にある学校づくりを進める。	・「学校コミュニティースクール」を活用し、学校、家庭、地域が連携・協働できる学校づくりを進める。 ・地域の幼稚園・小学校との交流活動、地域のスポーツイベント等への積極的な参画を行う。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
総務部	・積極的な情報発信	・HPの内容の充実および各イベントの豊富な情報提供かつ迅速な発信を心がけ、中学校等外部への情報強化を図る。特に、部活動のページではHP編集の手引きを作成し各顧問に編集をマスターしてもらい、充実した内容かつ計画的にタイムリーな更新を年2回以上してもらおう。 A 更新(行事)は7日以内					
		・本校の魅力をより強くアピールできるよう、引き続き学校案内パンフレットの内容を充実させスピーディーな配付を心がける。					
	・保護者および育友会との緊密な連携	・保護者が学校教育活動に関心を持ち、諸活動に進んで参加してもらえるよう情報を発信していく。また、ホームページ・育友会報誌(年2回発行)等を活用して育友会活動を広報し、活動への協力も促していく。さらにコロナウイルスに伴う情勢の変化に対応するため、本部役員と評議員との合同会議の開催方法や時間を弾力的に検討し、より多くの保護者の方に話し合いに参加していただけるようにする。					
	・魅力ある学校紹介行事の企画・実施	・e-オープンスクールでの配信内容を検討し、今まで以上に中学生にアピールする。特に部活動紹介では、生徒が制作した動画の導入や生徒による説明を通じて、よりわかりやすく魅力ある内容にし、興味を持たせる。また、全職員が協力して学校紹介事業に参画する。 A 参加者満足度95%以上					
・夏休みの部活動見学や体験受け入れが、コロナウイルス感染症再拡大の影響で中止になったことを受け、それに代わる機会を提供することで、中学生にアピールするとともに開かれた学校を目指す。							

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
教務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習習慣の確立</li> <li>学習意欲の向上</li> <li>基礎学力の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度も、<b>予鈴前入室・予鈴着席完了</b>の完全実施、本鈴始業の指導を全教員により粘り強く継続し、落ち着いた学校をつくるためにその<b>完全定着</b>を図る。</li> <li>A 達成率 95%以上(生徒アンケート)</li> </ul>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>科目の観点別評価を各教科・科目の定期考査に明確に設定し、学習の達成度、学習要点を生徒に確実に伝えることで、生徒の授業や家庭学習に取り組む姿勢・意欲の向上を図る。</li> <li>成績不振者講習の指導観点について、明確な指導基準を生徒・保護者に事前提示して理解を促すと共に、前向き・意欲的な姿勢を的確に受け止めて評価し、生徒の「やる気」の向上を促す。また、これにより本校の授業における生徒指導の基準周知を促すとともに、教員についても本校における指導のスタンスを再確認する機会とする。</li> <li>A1 私は授業に意欲的に取り組んでいる。</li> <li>A2 私は定期考査前に家庭での学習をきちんと行っている。(生徒アンケート)</li> </ul>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度も7月の期末考査前に学力促進講座を実施する。また、2学期中間考査前に学力促進講座を行い、学力の中位～上位層の生徒の学力向上を促す。また、この取り組みにより「基礎学力を支える学校」と共に「学力をさらに高める学校」という生徒・保護者の受け止めを図り、本校の全体学力の向上、校内の学習気運向上と生徒・職員ともに愛校心の向上を図る。</li> <li>(生徒アンケート)</li> <li>A1: 普段も家庭学習に取り組んでいる 45%以上</li> <li>A2: 私は大和広陵高校に入学してよかった。 70%以上</li> <li>(教員アンケート)</li> <li>A3: 「大和広陵高校にプライドを持っている。」 75%以上</li> </ul>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度から導入する新教育課程について、教育課程内規等検討委員会で提案・確定し、これに基づいて次年度に向けての適切な教務事務を進める。</li> </ul>						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度から完全実施する観点別評価に向けて、教務内規を改定・改正し、教育課程内規等検討委員会で提案・確定して全教員に周知するとともに、次年度に向けて準備を促す。</li> </ul>						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の適切な管理と情報機器の有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新校務支援システム、新成績処理システムの管理運用技術について、教務部内・外で複数教員による共有を図る。</li> </ul>					

	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生徒指導部	・基本的生活習慣の定着	・挨拶を進んで行うことの出来るよう、生徒会本部役員・クラブ員が校門・玄関で挨拶運動を行う。					
		・全ての生徒に時間を守る生活習慣を身につけさせるため、遅刻生徒には放課後課題を課す。 A 遅刻総数前年度比 10%減					
		・生徒との会話の機会に適切な言葉遣いを教員が教えることのできるよう、教員自身の意識を向上させる。 A 生徒アンケート達成度 90%以上					
	・生徒の規範意識の向上を図る	・高校生として身につけておくべき常識的な行動を取ることできるように、日常の教育活動から公德心を養う。					
		・日々の教育活動と生徒への声かけを間断ない「声かけ」を通して規範意識の向上を図る。 A 問題行動総数前年度比 10%減					
・部活動の活性化	・部活動に積極的に参加させ、その活動を継続できるように活動環境を整える。 A 部活動入部率 60%						
・道徳教育の推進	・道徳教育HRを通して、人間としての誇りと自立した心構えの育成、他人の気持ちを理解しようとする心の育成、心豊かな情操の育成を図る。						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
人権教育部	「自他敬愛」の精神の高揚	・あらゆる教育活動を通して、生徒の人権意識を高めるとともに、互いに尊重し合う人間関係づくりができるよう取り組みをすすめる。生徒アンケートで「人権意識が向上した」もの75%以上を目指す。					
		・生徒向け人権講演会を実施し、さらなる生徒の人権意識の向上を目指す。 ・人権に関わる生徒の問題行動の早期発見と対応をおこなう。					
	人権HRの取り組みの充実	・学年と連携しながら人権HRの充実を図る。事前の学年研修でしっかり協議し、各クラスでのHRの展開をサポートする。					
		・全職員対象の職員研修を実施し、また各種団体の実施する人権研修を確実に職員に伝える。					
	人権作文の取り組みの充実	・全生徒が夏期休業中の課題として人権作文に取り組むことにより、自己の人権意識を高揚させ、社会の様々な人権問題を直視する機会をつくる。人権作文の提出100%を目指す。					
		・人権作文を書く意義を浸透させ、生徒自らが自覚するため、夏休み前に資料の配布と事前指導を行う。また、締め切り日に未提出の者には提出指導を徹底する。					
奨学金手続きの確実な実施	・各種奨学金の案内を生徒に確実におこない、書類等の準備や記入について細かな指導をする。						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
進路指導 キャリア教育	・進路目標の早期確立と望ましい職業観・勤労観の育成	<p>○3年間を見通した系統的な進路HRや総合的な探究の時間・キャリア・パスポートの取り組みを通して、自らの将来を展望し、確かな目的意識を持って自己実現に向けて取り組む姿勢を育てる。</p> <p>○県立教育研究所と連携して、インターンシップに参加する生徒を増やし、職業意識を高める。</p> <p>○1. 2学期末に「進路だより」を発行する。</p> <p>A 生徒アンケート 満足度70%以上 A インターンシップ参加生徒年間10名以上</p>				
	・進路実現の支援	<p>○生徒・保護者の考えを理解し、満足した進路が実現できるよう進路相談、説明会の機会を設ける。</p> <p>・各学年 進路ガイダンスの充実 ・就職希望者個人面談 ・保護者説明会 ・総合型、学校推薦型選抜説明会</p> <p>○春期、秋期の進路講座の充実を図り、最後まで講座に取り組む姿勢を育てる。</p> <p>A 生徒アンケート 満足度70%以上</p>				
	・進路保障の取り組みの強化	<p>○各事業所との関係性の強化を図り、安定した求人件数を確保するよう努める。</p> <p>○各大学の入試方法などの情報の収集に努め、進学指導の充実に努める。</p> <p>A 学校斡旋就職希望者の内定率100%</p>				
	・学校外の教育力を活用したキャリア教育の推進	<p>○高大連携校をはじめとする学校外の教育力を活用することで、キャリア教育のさらなる推進を図る。</p> <p>・フィールドワーク事後指導 ・生涯スポーツ科 大学での学び講座 ・公務員採用セミナー</p> <p>○1学期末に職員研修を計画し、進路を取り巻く環境や指導方法などについて研修を深める。</p> <p>A 職員研修を年1回実施する。 A 生徒満足度 70%以上</p>				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
環境整備	・校内美化の推進	・通常清掃活動の徹底をはかる。環境整備部の清掃点検を実施、清掃担当者にフィードバックし、清掃活動の充実をはかる。 A 部員による点検作業を実施し、担当者と協力し清掃の充実を図る。「あさがお」、職員朝礼を使つての啓発活動を行う。						
	・ゴミの分別の徹底	・各ホームルームにおける担任からの生徒への啓発活動を図るとともに、生徒美化委員によるポスター作成及び掲示する。それにより全校生徒の協力を呼びかけ、ルール遵守の意識を高める。(校内美化・ゴミ分別の徹底) A 生徒アンケート調査結果「ゴミが落ちていたら拾う。」50%以上。						
		・ゴミの分別の習慣化を確実にするとともに、集団における様々なルールの存在を認知させ、守ることの大切さを意識させる。(ゴミ集積場での確認) A 生徒のアンケート調査結果「分別に従ってゴミを捨てる。」80%以上。						
	・緑化運動の推進	・校内3ヶ所の美化委員管理花壇での草花の栽培管理(週2回の水やり作業を含む)を実施する。						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
文化図書	・図書館教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生対象の図書館オリエンテーションを始め、新着図書の教室掲示、学級文庫の貸し出しを行う。</li> <li>・図書館イベントを効果的に実施し、学校活動全般を通し、生徒、教員が積極的に図書館の利用につながる機会をつくる。</li> <li>・図書館司書との連携を密にし、図書委員の活動を活発にし、図書館を活気あふれる場にする。</li> </ul> A 貸出数 前年度同数以上					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーリー創作HRを通して、生徒が読書に親しむ機会を設ける。</li> </ul> A HRの取り組みに対するアンケートの結果で「取り組んだ」「どちらかというに取り組んだ」の項目 50 %以上					
	・文化活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭において多様なジャンルの芸術鑑賞を企画し、様々な文化に触れる機会を生徒に与え、芸術を鑑賞する態度を養う。</li> </ul> A 芸術鑑賞会事後アンケート満足度 85 %以上					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館イベントや新春カルタ会など文化的活動体験を積極的、効果的に実施し、様々な文化に触れる機会を持たせる。</li> </ul> A 生徒満足度 70 %以上					



評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
保健体育部	・健康教育の実現	・生徒のニーズに合わせた資料を定期的に作成し、生徒の健康意識の向上に努める。また本人だけでなく保護者にも伝わるよう保健だよりを有効なものにしていく。 A 学期に一回資料(保健だより)を発行する。					
	・保健室との連携	・保健室、来室生徒の状況について、学年・クラス担任と連携し、情報を共有する。 A 学年会議等で情報交換を図る。					
	・食育の推進	・飲食物についての意識を向上させるため、HR教室に職に関する資料を掲示する。 ・運動部員の食事に対する意識を向上させる。 A 食に関する講演会(部員対象)を実施する。					
	・生徒の体力向上	・トレーニングの必要性について理解させ授業でトレーニングを充実させることにより、トレーニング方法の習得や日常的に実施できる能力を育てる。また1学期の授業では10分間走を実施し、運動習慣も身につけさせる。 A 学期中にトレーニングの評価を2回程度実施する。					
		・持久走を毎学期実施し、体力の向上を図る。 A 従来の1, 5倍で実施する。					
		・スポーツテストの意義を理解させ、その正しい測定方法や種目ごとのコツについて授業を展開し、各種目の数値を向上させる。 A 全学年において「体づくり運動」の取り組みを充実させる。またスポーツテスト練習を行い記録向上を目指す。					
	・運動部活動の活性化	・運動部員集会を行い、アスリートとしての資質の向上を図る。 ・毎週火曜日の清掃活動や各部の管理区域の整理整頓を徹底させる。 A 運動部員集会の実施 毎月1回、学期に1回以上 運動部・文化部合同の清掃活動を実施する。					
		・新入生体験入部制度を実施し、部活動への加入を促進する。 A 体験入部を100%完了させ、新入生部活動加入率50%以上を達成する。					

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
教育相談室	・広報と研修の充実を図る	・生徒や保護者に、スクールカウンセリングの案内を行う。 ・教職員、生徒向けに「スクールカウンセラー便り」を発行する。					
		・教職員向けに職員研修を実施する。					
	・支援の必要な生徒の把握に努める	・中学校訪問情報、生徒アンケート回答、各学年会議における情報交換等とおして、支援が必要な生徒の実態を把握する。					
	・生徒についての的確な情報交換と教職員連携を図る	・定期的に教育相談室会議を開き、生徒についての情報交換を行う。					
		・必要に応じて「ケース会議」、「教科担当者連絡会」を開催し、支援や学習指導が必要な生徒について情報交換を行う。また、定期的に職員会議で報告を行う。					
	・相談活動の充実	・生徒指導部や進路指導部、養護教諭等、他分掌と連携しながら、クラスや生徒の状況に応じた相談活動を実施する。					
		・不登校や問題行動等、ケースに応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関との連携を図る。					
		・教育相談室を有効に活用する。					

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生涯 スポーツ科	実習の充実	・1年生野外活動実習 通常通り国立曽爾青少年自然家でのキャンプ 実習を再開する。					
		・2年生スキー実習 インストラクターの指導を意欲的に受けること により、効率よく上達できるようにする。 A:スキー検定4級以上合格者90%					
		・3年生 水上実習、吉野川周辺で新たな場所での実習 をスタートさせる。下見・打ち合わせなどを入念 に行い、達成感のある実習となるよう企画、実 施していく。					
	部活動の充実	・日常の体育授業をとおして心身を鍛えるとと もに、合理的で効果的な運動の実践が身につく よう指導していく。部員各自がお互いに濃厚 接触者にならない行動を心がける。					
		・生徒の悩みや問題に対して部顧問と担任が 連携を図り、心と体の安定を保ちながら人間 性、競技力の向上を目指すとともに、退部生徒 の減少を目指す。					
	学力向上と進路指導	・日常の授業を大切に、聞く姿勢や理解、考 える力をつける。学習活動優先を生徒に理解 させ、授業や学校生活の様子など関係教員で 情報共有し、連携を図っていく。 学期末の成績不審者講習対象生徒の減少を 目指す。					
・将来、体育・指導者を志す進路希望者数を増 やしていけるよう、アプローチしていく。 入学志願者の減少傾向に対策していく。 A:入学者選抜への積極的な取り組み							

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学校事務	・授業料の納期内収納	<ul style="list-style-type: none"> <li>・納期内での未収授業料が発生した場合は、その徴収事務取扱要綱等の関係規定に基づく手続きを着実に執ることにより、未収の解消を図る。</li> <li>・未収授業料の発生を防止するため、事務職・教職の連携を密に文書通知や電話、対面での納入啓発を図る。</li> <li>・就学支援金制度についての周知を徹底し、遺漏無くその申請が行われるよう啓発していく。</li> </ul>				
	・光熱水費等の節減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節に応じた電力消費となるようデマンド監視システムの効果的な活用を図る。</li> <li>・省エネ環境意識の醸成を図り、無駄のない節電、節水に努め、経費の縮減とともに節電器機等への更新も行いつつ効果的な活用への工夫に取り組む。</li> </ul>				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第1学年	基本的生活習慣の確立	・社会や学校のルールを守る。 A 学校評価生徒用アンケート(項目19) 「そう思う」&「どちらかというと思う」 90%以上					
		・言葉や挨拶の大切さを認識する。 A 学校評価生徒用アンケート(項目17) 「そう思う」&「どちらかというと思う」 90%以上					
		・遅刻の防止、5分前行動の徹底。 A 遅刻数 学年平均1人1回以内 兼 A 入室遅れ含め1人20回(青カード)以内					
	基礎学力の定着	・予鈴着席の徹底、チャイム始業の定着。 A 学校評価生徒用アンケート(項目15) 「そう思う」&「どちらかというと思う」 90%以上					
		・「基礎学」の充実、やり直しの徹底 A 小テスト合格率80%以上 兼 A やり直しプリント1週間以内提出 80%					
	部活動への参加	・部活動への積極的参加、加入率の向上 A 加入率 60%以上					
	自己肯定感の醸成	・個人面談や家庭訪問だけでなく、ホームルーム活動、生徒指導の場面を有効活用し、自分自身のこれまでの振り返り、これからの生き方など自らの在り方を考えさせる。 A 学校評価生徒用アンケート(項目21) 「そう思う」&「どちらかというと思う」 80%以上					

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第2学年	積極的な学習態度を養う	予鈴着席の徹底 A 達成度90%以上					
		授業を大切に A 達成度90%以上					
		基礎学力を身につける A 基礎学の小テスト合格率70%以上					
	規則を守る	服装、頭髪を正す A 達成度90%以上					
		挨拶を自らすすんで A 達成度90%以上					
		欠席、遅刻をなくす A 欠席、遅刻前年度比10%減					
	集団生活を心掛ける	社会の一員である自覚をもつ A 達成度90%以上					
		充実したスキー実習、修学旅行にする A 満足度90%以上					
		校内美化に努める A 積極的に美化活動に参加する90%以上					

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第3学年	・学習意欲を喚起し、授業を大切に学力の向上を図る。また自己の進路実現のため、積極的に行動する態度を育てる。	・予鈴着席・チャイム始業を徹底する。 A 生徒アンケート達成度90%以上					
		・課題提出等を含めた学習態度をよくさせ、定期考査にきちんと取り組むよう指導する。 A 生徒アンケート達成度90%以上					
		・自らの進路を前向きに考え、進路資料室を活発に利用したり、教員に相談したり等、進路実現のために積極的に行動し、進路達成率を向上させる。 A 進路決定達成率90%以上					
	・諸活動・行事に積極的に取り組む姿勢を育て、学校生活を充実させる。	・部活動や生徒会活動が活発になるよう各自が工夫をし、最上級生として後輩の模範となる姿勢を育てる。 A 生徒アンケート達成度90%以上					
		・TeamPioneerを中心に学校生活が充実するよう、様々な取り組みを企画し、運営できるよう指導する。 A 生徒アンケート達成度90%					
	・社会人として必要な生活習慣やマナーを身につける。	・校則や社会のルールを理解し守るよう指導をし社会人としての自覚を養う。 A 生徒アンケート達成度90%以上					
		・挨拶をする大切さを理解させ、生徒自ら実践できるよう指導する。 A 生徒アンケート達成度90%以上					
		・正しい言葉遣いの大切さを理解させ、生徒自ら実践できるよう適切に指導する。 A 生徒アンケート達成度90%以上					
		・時間を守る大切さを理解させる。欠席・遅刻をしないように指導する。 A 欠席数・遅刻数前年比10%減					